

東京大学復興デザイン研究体
講座開設10周年記念事業

災間を生きる 都市づくりセミナー

撮影：アジア航測株式会社

参加無料

開催日

2024年 **12月25日(水)**

災害・復興の記憶と日々の生活の狭間で…

日時 **13:30～17:30** ※12:30 開場

場所 **広島コンベンションホール**
(広島市東区二葉の里3丁目5-4 広テレビル)

対象 **防災・復興・都市計画などの分野に関わる
行政関係者のみなさま**

定員 **80名程度** ※先着順とさせていただきます

プログラム

司会；広島テレビアナウンサー 木村和美

基調講演「復興の現状と研究体への期待」

元国土交通省 大臣官房技術審議官 菊池雅彦 氏

リレートーク「災間を生きる都市の今」

コーディネーター 東京大学復興デザイン研究体 教授 羽藤 英二 氏

【episode1】福島復興(2011)

日本女子大学建築デザイン学部 准教授 井本佐保里氏

【episode2】熊本地震(2016)

東京大学大学院工学系研究科 助教 渡邊 萌 氏

【episode3】西日本豪雨災害(2018)

呉市復興総室副総室長 池田英樹 氏

【episode4】能登半島地震(2024)

東京大学大学院工学系研究科 助教 中尾俊介 氏

【episode5】東日本大震災(2011)

復建調査設計株式会社 佐藤啓輔 氏 / 吉野大介 氏

パネルディスカッション「災間の今、必要なこと」

コーディネーター 東京大学復興デザイン研究体 教授 羽藤 英二 氏
パネリスト 元国土交通省 大臣官房技術審議官 菊池 雅彦 氏
日本女子大学建築デザイン学部 准教授 井本佐保里氏
筑波大学システム情報系社会工学域 准教授 浦田 淳司 氏
東京大学大学院工学系研究科 松永 隆宏 氏
復建調査設計株式会社 山根 啓典 氏
アジア航測株式会社 牧 澄枝 氏

同時開催 復興デザインツアー

災害・復興から学び、記憶を継承する。あの場所は今…

日時 **9:00～12:00頃** ※ 9:00 集合

集合場所 **広島駅 新幹線口2階**
(ペDESTリアンデッキ2階中央サークル)

定員 **各コース 20名程度** ※先着順とさせていただきます

コース 【広島コース】

平成26年8月、広島市北部で発生した大規模な土砂災害で被災した八木地区の復興まちづくりの現状を視察します。

《ナビゲーター》

東京大学大学院復興デザイン研究体 教授 羽藤英二氏
広島豪雨災害伝承館 松井 憲氏

【呉コース】

平成30年7月の西日本豪雨による土石流で300戸超が全半壊した呉市天応地区の復興まちづくりの現状を視察します。

《ナビゲーター》

名城大学理工学部建築学科 准教授 萩原拓也氏
呉市 復興総室 副総室長 池田英樹氏

同時開催 復興デザイン展

経験を未来へ…

新たな都市づくりを実現する研究・技術の数々を紹介

日時 2024年12月25日(水) **13:00～17:00**

集合場所 **広島コンベンションホール 1Fエントランス**
(広島市東区二葉の里3丁目5-4 広テレビル)

主催 東京大学復興デザイン研究体
復建調査設計株式会社 / アジア航測株式会社

後援 広島テレビ株式会社

【お問合せ/お申込み】

復建調査設計(株) 社会デザイン創発センター

E-mail ; r06.redesin.10th@fukken.co.jp

TEL ; 050-9002-1726

セミナー及びツアーへの参加は、必要事項をご記入の上、本用紙をFAXにて送信いただくか、メールにて送信先へお申し込みください。

団体(自治体)名		電話番号			
参加者	対 象	☐ ツアー	☐ セミナー	☐ ツアー	☐ セミナー
	所 属				
	氏 名				
	E-mail				

記載された個人情報、本セミナーの目的以外では一切使用しません。

復興デザインツアー ツアースケジュール

今回は、2 ツアーコースを準備しています。いずれのコースも、未曾有の災害後、復興へ向け変わりゆく街をナビゲーターと共に歩き、被災当時の様子やその後の取組みについて、セッションの中で語り合います。みなさまお誘いあわせの上、ぜひご参加ください。

広島コース

時 刻	行 程
8:45	参加者集合・受付開始
9:00	広島駅 発
	車内オリエンテーション
9:40	現地踏査 鳥越川堰堤→長束八木線→上山川堰堤→災害慰霊碑
10:30	セッション ～復興までの10年を振り返って～
11:10	広島市豪雨災害伝承館 見学
11:40	広島市豪雨災害伝承館 発
	車内オリエンテーション
12:15	セミナー会場到着 / 解散

《コースのポイント》

77人が犠牲になった土砂災害の発生から今年で10年。砂防堰堤や広域避難路といったハード整備の現状、また住民主体の復興まちづくりとデザイン研究体の関わり等、あの頃を振り返り災間を生きる今を考えます。



呉コース

時 刻	行 程
8:45	参加者集合・受付開始
9:00	広島駅 発
	車内オリエンテーション
9:40	セッション ～復興デザイン研究体の取組～
10:15	現地踏査 天応市民センター→背戸の川沿い→工場跡地
11:10	現地踏査
11:40	工場跡地 発
	車内オリエンテーション
12:15	セミナー会場到着 / 解散

《コースのポイント》

天応地区は大屋大川や背戸の川の上流域で発生した多数の斜面崩壊等による被害が広範囲に渡りました。呉市事業となる公園整備等を確認し、今後の災害に対する備え等について考えます。



写真出典：「平成30年7月豪雨災害呉市災害記録誌」（呉市）

東京大学復興デザイン研究体とは…

「復興デザイン研究体」は、2011年東日本大震災を契機に、東京大学工学系研究科の社会基盤学、建築学、都市工学の3専攻の教員を中心とし、自治体、企業、学術会議などと連携しながら、次の都市・地域・国土像を考える組織として設立されました。そして、2014年からは復建調査設計㈱、アジア航測㈱の支援により社会連携講座として本格的に始動し、2021年からは寄付講座に移行しました。

復興デザイン研究体における「復興」とは、大地震や津波などの自然災害からの復興はもちろん、世界人口の急増、国内人口の減少などを背景とした都市災害、エネルギー不足や食糧問題、感染症によるパンデミック、世界中で頻発する貧困問題などからの復興も含みます。このような課題を解決するためには、従前のように工学的要素技術をバラバラに取り扱うのではなく、都市社会技術として包括的に結びつけた全く新しい独創的な問題解決手法を確立しなければなりません。現在、国際競争力を有するモビリティ、材料、エネルギーといった工学技術を核としながら工学以外の様々な分野と連携した上で、都市・地域・コミュニティ・国土レベルで展開可能な新たな都市社会モデルを構築し、そのモデルを日本のみならず海外の諸都市へも展開すべく、復興デザイン研究体は活動しています。

